


令和3年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	男女共同参画社会の構築に向けた教育課題・地域課題の探求
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 臨床・健康教育学系教授 宮下敏恵
3 学外の連携機関等	(連携機関等名) (担当者職名・氏名)
4 事業の趣旨・目的	<p>本事業の目的は、上越市教育コラボにおいて「男女共同参画社会の構築に向けた教育課題・地域課題の探究」をテーマとしたワークショップを開催することにある。このワークショップにおいて、世代（年齢）・性別・職業の異なる人々、すなわち、学生および大学教員、地域住民がそれぞれに抱えている問題意識や状況認識を交錯させることを通じて、「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2019年12月20日閣議決定）が掲げる「将来にわたって「活力のある社会」の実現」を目指して、上越地域が取り組むべき課題をあぶり出すことを目的とした。</p>
5 事業活動報告	<p>①2021年11月の上越市教育コラボにおいてワークショップを開催し、本事業の目的に照らして有効であると考えられる映画作品の上映を行った。映画「この星は、私の星じゃない」を上映し、その後参加者とフリートークを行った。参加者は学内参加者15名、学外参加者1名であった。</p>
	



②「ジェンダー&セクシュアリティ・フォーラム」を上越教育大学において3回開催した。1回目は2021年10月23日で映画「幸福路のチー」を上映し、上映後は参加者とフリートークを行った。参加者は学内参加者9名、学外参加者1名であった。



2 回目は 2022 年 1 月 22 日で映画「セルロイド・クローゼット」を上映し、その後参加者とフリートークを行った。参加者は学内参加者 11 名、学外参加者 1 名であった。

3 回目は 2022 年 2 月 19 日に映画「Cosmetic DNA」の上映を行い、上映後参加者とフリートークを行った。参加者は学内参加者 8 名、学外参加者 1 名であった。



6 本事業で得られた成果

以上の四度にわたる企画を開催することで、以下の 4 点の成果が得られた。第 1 に、本学において必ずしも十分に保障されているとは言いがたい、ジェンダー／セクシュアリティをめぐる学びの場を提供することで、このテーマに関心を抱く学生の中に新たなつながりが生まれた。第 2 に、本事業に継続的に参加する学生のなかに、本事業へのより主体的なコミットメントを希望する者が現れた。これにともなって、次年度以降の企画を実施するにあたっては、教員と学生のコラボレーションをより強めることで、本事業の取り組み内容をより深化させることが見込まれる。第 3 に、必ずしも人数の上では多くないとはいえ、世代や立場を異にする学外からの参加者も得られたことで、男女共同参画社会の実現へ向けた課題の捉え方や感じ方の違いが多少なりとも浮かび上がることとなった。以上を踏まえて、第 4 に、本事業が目的として掲げている「上越地域が取り組むべき課題をあぶり出すこと」に取り組むためには、引き続き、教員—学生—地域住民の意見交換を積み重ねていくことが極めて重要であることが実感された。

7 その他
(成果物等の名称)